

◆生態系サービス（人々が生態系から得ることのできる便益※1）等の視点からの行徳湿地の整理について

1. 行徳湿地の生態系サービス（案）

サービスの現状 △：小 ○：中 ◎：大 →：順応的管理と活用により変化

生態系サービス (出典：ミレニアム生態系評価※2)		行徳湿地の生態系サービス			
		サービス※3	項目	根拠・説明	現状
基盤サービス 栄養塩の循環 土壌形成 一次生産 その他	供給サービス 食糧 淡水 木材および繊維 燃料 その他	生物生産	水産資源	カレイ、ハゼ、コノシロ、スズキなどの稚魚生育、二枚貝類など水産生物幼生生産	○→◎
	調整サービス 気候調整 洪水制御 疾病制御 水の浄化 その他	気候の調節	気温調整	ヒートアイランド化の軽減と住宅地への風路	○
			緩衝帯	湾岸道路・東関東自動車道の排気ガス、騒音、振動など	○
		水の浄化	水質浄化	有機物、栄養塩の取り込み、東京湾富栄養化、貧酸素化の軽減	○→◎
			市排水の受け入れ (富栄養水の希釈)	都市排水口の開口。新浜湖がなければ千鳥水門と市川港の間が都市排水で満たされる。	○
			三番瀬の潮汐による海水交換	干満による新浜湖の海水交換で市川港、江戸川放水路、三番瀬を通過する水量が増加	○
	自然災害からの防護	避難場所	火災発生時の避難場所、消火水提供	△	
	文化的サービス 審美的 精神的 教育的 レクリエーション的 その他	教育的価値	野鳥観察	シギ・チドリ、サギ、カモ類など野鳥の生息場（渡りの中継地、越冬地、繁殖地）	○→◎
			環境教育	東京湾生物との出会い、人工的環境の保全再生活動を素材として環境学習と教育	○→◎
			環境保全活動	人工的環境の生態系保全にむけた順応的管理のモデル、環境教育の素材提供	○→◎
			科学研究フィールド	自然や生物生態に関する知見の蓄積と共有、環境保全技術、環境教育の素材提供	○→◎
		レクリエーションとエコツーリズム	景観	植生、野鳥の生息を含む景観提供	○→◎
			散策	行徳ふれあい周回路（行徳野鳥観察舎前）の散策	
	文化的遺産価値	地域文化	自然環境保全への取り組みを通じたコミュニティづくり、こだわり、歴史・風土	△→◎	

2. 行徳湿地の生物多様性（案）

項目	根拠・説明	現状
希少生物生息	塩性湿地性の東京湾希少ベントス種やトビハゼの個体群保全、幼生の生産による東京湾生物多様性保全	○→◎
東京湾の青潮からの避難場所	主に魚類	
地域の自然の保全	沿岸湿地環境の生物多様性保全帯	

※1 平成 22 年度版 環境・循環型社会・生物多様性白書 第 3 章第 1 節 より引用

※2 国連の主唱により 2001 年から 2005 年にかけて行われた、地球規模の生態系に関する総合評価

※3 Millennium Ecosystem Assessment (編)・横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会 (監訳). 2007. Ecosystems and Human Well-Being: Synthesis. World Resource Institute, Washington, DC. (翻訳) 国連ミレニアム生態系評価 生態系サービスと人類の未来. 68-74. オーム社. より引用し、一部修正。